

令和5年度 学習分析事業 改善計画 三原市立南小学校

1. 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	前年度結果 偏差値平均	/	53.5	52	51.2	50.2	51.7
	本年度結果 偏差値平均	52.6	52.7	51.9	52.4	48	51.5
算数	前年度結果 偏差値平均	/	52.5	50.8	50.6	49.2	50.8
	本年度結果 偏差値平均	53.9	53.4	54.3	52.1	50.5	52.8
理科	前年度結果 偏差値平均	/	/	/	51.7	48.2	50.0
	本年度結果 偏差値平均	/	/	52.1	50.3	46.3	49.6
全体	前年度結果 偏差値平均	/	53	51.4	51.3	49.1	51.2
	本年度結果 偏差値平均	53.2	53.1	52.7	51.5	47.8	51.7

②全国学力・学習状況調査 正答率平均(第6学年対象)

教科	国語	算数
前年度結果 (対県比)	67 (100)	65 (101.5)
本年度結果 (対県比)	63 (91)	62 (96)

2. 調査から明らかになった課題

<p>【年度当初の学力について】(NRTをうけて)</p> <p>●国語では、話すこと・聞くこと領域において「話題に沿って話す」(4年/57%)「計画的に話し合い考えをまとめる」(6年/55.8%)、書くこと領域において「書く事柄や順序を考える」(3年/13%)「目的に応じて工夫して書く」(5年/37.4%)、読むこと領域において文章を読み感想などを伝え合う」(2年/47.9%)に課題があった。</p> <p>●算数では、数と計算領域において「数の大小、最小の数」(2年/56%)「式の読み取り」(3年/46%)「分数のしくみ」(4年/36%)「整数と小数の仕組み」(6年/79.5%)、データの活用領域においては「表と折れ線グラフ」(5年/51.1%)に課題があった。</p>	<p>【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)</p> <p>●国語科(情報の扱い方に関する事項の知識・技能)では、情報と情報の関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことに(48.2%)に課題があった。</p> <p>●国語科(話すこと・聞くこと)の思考・判断・表現)では、目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる力(60.2%)に課題があった。</p> <p>●算数科(変化と関係の知識・技能)では、筋道を立てて考え、言葉と式を関連付ける力、伴って変わる2つの数量関係を理解すること(45.8%)に課題があった。</p> <p>●算数科(数と計算の思考・判断・表現)では、()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連づけて読み取ること(63.9%)に課題があった。</p>
---	--

3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】</p> <p>(1)全教諭が「問いの探究」を意識した授業を実施し、全学級の児童が多様な表現方法で考えることのできる授業づくり・授業改善を行う。</p> <p>(2)全学級で、自分の言葉でまとめや振り返りが書けるようにする。</p> <p>(3)「伸び」の実感と意欲向上を大切にしたい「やればできる検定」を核とした、基礎学力定着への取組を全校で実施する。</p>	<p>(1)(2) ①各学力調査(NRT、全国学力・学習状況調査)の誤答分析による実態把握と改善計画の立案 →全国比との差が顕著に表れている問題を解き、児童に必要な力や授業改善の視点で分析・交流を行う。 ②研究授業・研究協議を通じた「めざす授業」の共有 (「改善・協議の柱」の焦点化、1人年1回以上) →学年間で教材研究・授業公開をし、授業力向上に向けて意識改革を進める。 ③授業観察を月1回継続的に実施し、全職員の授業力アップを目指す。 →参観シートを活用して参観、改善点を焦点化して振り返りを行う。 →参観シートを活用して、振り返り、まとめの共有を行う。</p> <p>(3) ①各単元導入時における「既習事項の学び直し」実施 (授業と家庭学習とを連動させた「学びの土台づくり」・チャレンジタイムでの前学年の復習・チャレン図タイムでの表現力の向上) ②計算「やればできるっ！」検定の定期的実施 (苦手分野に焦点化を絞った反復練習) ③「きいてねタイム」の実施 (低学年を対象に、四則計算や音読に困難さを抱えた児童を取り上げ、基礎学力の定着を図る)</p>	<p>(1)</p> <p>① 6月・8月</p> <p>② 5月～2月</p> <p>③ 月1回</p> <p>(2)</p> <p>① 各単元前の家庭学習 チャレンジタイム週4回</p> <p>② 月2回</p> <p>③ 毎日(給食準備中)</p>	<p>・全児童の各単元末テスト平均値 (通過率80%以上の児童の割合80%)</p> <p>・南小アンケート 「多様な表現方法で考えることができる」 (肯定的評価80%以上)</p> <p>・計算検定合格率(80%以上)</p>
<p>【学級・学習集団づくり】</p> <p>(1)全学級において「南小スタンダード」を徹底し安心安全な風土の醸成を図る。</p> <p>(2)全学級において学習規律の徹底を図り、学級学年経営を基盤とした支持的風土の醸成を図る。</p>	<p>①Q-Uによる実態把握と改善計画の立案・共有</p> <p>②要支援群にいる児童(NRTとのクロス集計表のD、C-Iに位置する児童)との面談実施・全職員による実態の共有</p> <p>③児童会による生活目標と学習目標の提示・各学級によるふり返りの実施</p> <p>④児童会、委員会活動、縦割り班活動を通して6年生主体となる異学年交流の計画・実施</p> <p>⑤全職員対象に、自らの学級経営のこだわりを語る場を作る。</p>	<p>① 6月・8月</p> <p>② 9～10月</p> <p>③ 通年</p> <p>④ 通年</p> <p>⑤ 通年</p>	<p>・ハイパーQUテストにおける学級満足度の数値 (全国平均以上)</p> <p>・自己有用感に係る児童アンケート 「自分にはよいところがある」「よさを友達に認められている」において肯定的評価(80%以上)</p>